

抄録は、Word で下記のように作ってメールに添付してお送りください。

Word が使えない場合は Word 以外でお作り頂くことも可能ですが
こちらで開くことができない場合もありますので
できるだけ Word でお願いいたします。

.....

タイトル (ゴシック 14 ポイント 中央揃え)

所属 (明朝 10.5 ポイント 右寄せ)

演者 (明朝 10.5 ポイント 右寄せ 発表者に○)

見出し (ゴシック 10.5 ポイント)

本文 (明朝 10.5 ポイント)

レイアウトの設定

用紙サイズ：A4、

余白設定：上左右は 20mm、下は 25mm

文字数は 40 字×40 行

「一般演題」、「この CTG をどう読むか」の抄録本文は、次ページ見本のように、
タイトル、所属、本文を含めて A4 用紙 1 枚に収める。

具体的なイメージは、次ページのページ見本をご覧ください。

【一般演題】

抄録本文に続く 2 ページ以降に CTG 画像等を添付。

CTG は必須ではないが付けることが望ましい。

CTG は原則 A4 用紙 3 枚以内に収める。

CTG の大きさと向きは提示する CTG の量により調整してください。

【この CTG をどう読むか】

CTG を研究会会場で参加者と検討するため、本文中にバックグラウンドや経緯など
必要な情報は記載するが、**結末は記載しない**。結末は研究会会場で参加者との検討
後に提示する。

抄録本文に続く 2 頁以降に CTG 画像などを添付。

CTG は**必須**で原則 A4 用紙 3 枚以内に収める。

CTG の大きさと向きは提示する CTG の量により調整してください。

人工破膜後に臍帯脱出を起こしたが経膈分娩できた一症例

東都大学医学部付属病院総合周産期母子医療センター

○東 春子、大森三郎

【はじめに】

分娩進行中に人工破膜を行った後に臍帯脱出を起こしたが、経膈分娩に至り、臍帯動脈血ガスも良好であった症例を経験したので報告する。

【症例】

症例は、27歳 G2P1。既往歴はなし。妊娠経過中は順調であった。妊娠39週4日陣痛発来のため、当院に入院。入院時、子宮口開大3cm、展退80%、

.....

分娩第1期のCTGには胎児異常を認めなかった(図1)。

.....

排臨の状態で行った時のCTGを図2に示す。

その後、1回の息みで分娩に至った。

児は、2985g 女児。アプガー.....臍帯動脈血のガス分析の値は.....

【考察】

人工破膜前に臍帯下垂がないことを内診で十分確認したにも関わらず、

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

分娩第 2 期に一過性徐脈が頻発し判断に苦慮した一例

太田産婦人科

○内藤春子、大森一雄

【はじめに】

分娩第 2 期に一過性徐脈が頻発したが、変動、遅発かの判別が難しく、分娩方針決定に苦慮した症例を経験したので報告するとともに、この CTG をどう読むかについてのご意見を頂きたい。

【症例とその経過】

症例は、41 歳 G2P0。既往歴は特になし。妊娠経過は順調であった。妊娠 20 週 0 日に日本超音波医学会認定の超音波専門医が約 30 分かけて胎児超音波検査を行い、胎児に形態異常が無いこと胎盤は後壁付着で臍帯は子宮底側の辺縁付着であることを確認した。

妊娠 39 週 4 日に破水感があり当院を診。高位破水の診断で入院。入院時、子宮口閉鎖展退 50%、

入院時の CTG を図 1 に示すが子宮収縮は弱く 15-20 分おきと不規則であった。39 週 5 日、入院から 10 時間後に陣痛が開始した。その後の分娩第 1 期の CTG を図 2、図 3 に示す。

陣痛開始から 15 時間後に子宮口は全開した。この時の CTG を図 4 に示す。その 30 分後から図 5 に示すように変動一過性徐脈と思われる一過性徐脈が頻発するようになり、その後は、図 6~9 に示すように変動か遅発かの判断に苦慮する波形が頻発した。母体体温は 37.5℃で、血液検査では

子宮口全開から 3 時間後、St+3 の時点で図 10 のような CTG となったため、胎児機能不全の診断で吸引分娩とした。

新生児所見などの分娩結果については、研究会での CTG 検討の後に提示する。